

「土と基礎」の小特集テーマに関するアンケート結果

「土と基礎」編集委員会企画担当グループ委員会

1. ま え が き

学会誌「土と基礎」は、編集の基本方針に従い年間7～8号の小特集を企画・編集しております。小特集テーマの選定に当たっては、編集上の重要事項として慎重に審議されており、より多くの会員に役立つ情報を掲載すべく努力しております。会員の小特集号に対するご希望をより直接的に企画に活かすために、テーマに関するアンケート調査を昭和61年1月号紙上をお願い致しました。回答を寄せられた方の総数は143名で、総会員数の約1%の結果に終わり、前回（昭和56年1月）の同様なアンケート調査における1割強の回収率と比べても、低調であったといえます。会員のご意見・ご希望を伺うアンケート調査の実施方法に、今後、工夫すべき点の多いことを痛感しております。しかし、回答いただいた方の年齢構成は、実務の上で実質的な責任者の立場におられる30代～40代を中心に、20代～70代の広い範囲に及び、また、所属や専門も極めて多様であっ

て、「土と基礎」に対する関心の幅広さを物語っています。

2. アンケート結果

A これまでの小特集テーマについて

A-1 58年～60年のテーマ

列挙した最近3年間のテーマについて、良い企画であったと思われるものを選んでください。回答は、発行月左の空欄に、次に記した選定理由によってA～Dの記号を付してください。選定する号数には制限は設けません。

- A 実務上の資料として活用または保存した。
- B 学術性の高い知識が得られた。
- C 新しい情報が得られた。
- D 読み物として興味深かった。

この設問は、小特集の読み方あるいは利用の仕方を問うもので、集計結果を表-1に示す。表の合計欄が大きいほど会員に評価されたことになるが、良い企画であったとする理由は大きく異なるものの、各小特集とも一定以上（全回答の1/4以上）の評価を受けていて、それぞれ好感を持

表-1 昭和58年～60年の小特集に対する評価

発行月	小 特 集 テ ー マ	実務上の資料	学 術 性	新しい情報	読 み 物	区 分 な し	合 計
昭和58年	1月号	地域と土質ローカルな土への招待—	24	3	8	13	48
	2	礫まじり地盤	22	7	2	1	32
	3	地下ダムと地下水かん養	8	6	16	9	40
	5	耐震診断と補強法	17	4	8	4	33
	6	埋立地盤	24	1	11	4	41
	7	室内力学試験の最近の技術	11	9	27	2	49
	9	補強土	24	4	13	4	45
	11	土質工学の発展に貢献した人々				73	74
	小 計		130	34	85	110	362
	1月号	土質技術におけるロボット化	4		19	20	43
	2	高圧・低圧下における土の挙動	6	18	9	3	36
昭和59年	4	ダムの基礎地盤に関する諸問題	23	6	3	5	38
	6	土圧の理論と実際	26	23	4	2	56
	7	岩塊を用いた盛土の問題	15	4	10	6	36
	9	日本海中部地震	6	6	22	26	61
	11	岩塊の異方性	7	27	8	6	49
	小 計		87	84	75	68	319
昭和60年	1月号	道路ができるまで	11	1	2	20	34
	2	傾斜地盤における構造物の基礎	29	3	7	4	44
	3	過圧密粘土の力学特性	10	23	7		41
	5	ジオテキスタイルを用いた工法	15	6	43	7	71
	6	粗粒材の設計定数の決定法とその適用	26	4	7	2	39
	7	地盤の探査技術	18	3	25	8	56
	9	農学における土質工学	8	1	8	16	33
	11	長野県西部地震	4	5	20	28	58
	小 計		121	46	119	85	376
	合 計		338	164	279	263	1057
	(%)		(32.0)	(15.5)	(26.4)	(24.9)	(100.0)

学会活動から

表-2 今後希望する小特集のテーマの分野

テーマの分野	記入した記号	◎	○	△
1. 一般		2	3	2
2. 土地質		9	11	11
3. 現地調査		5	11	8
4. 土の性質：室内試験と現地試験		16	15	18
5. 土の工学的問題の解析		36	24	24
6. 岩の性質：室内試験と現地試験		7	10	4
7. 岩の工学的問題と解析		7	14	12
8. 構造物の設計，施工および挙動		31	29	17
9. 施工法および施工機械		1	11	16
10. 雪氷の力学および工学		2	2	3
小 計		116	130	115

って受け入れられている。「土と基礎」の性格上、「実務上の資料」として利用できたことが良い企画であったとする最も大きい理由であるのは当然として、それと同時に、「学術性」、「新しい情報」、「読み物」を評価している人も多い。「土と基礎」が幅広い利用のされ方をしている点に注目したい。

図-2 57年以前のテーマ

良い企画であったと思われるものの発行年月、小特集テーマを（ ）内に記入してください。テーマ名の長いものは略記でも結構です。また□内に図-1と同様にA～Dの記号によって選定理由を付してください。

良い企画であったとした選定理由を、発行年月ごとに集計・整理してみると、回答数は昭和55年以降に集中していて、過去5～6年程度の小特集の内容は読者の記憶に比較的鮮明に残っているようである。良い企画であったとする理由に着目すると、「実務上の資料」が60%と全体の過半数を占めていて、実務上の資料として活用または保存の対象となったテーマが評価されているといえよう。

図 今後希望する小特集テーマについて

はがきの1, 2, ……, a, b, ……等の記号を、重点に置くべきと思われる順に◎, ○, △で囲んでください。図-1, 2, 3とも◎, ○, △の数は各1個までとします。

図-1 テーマの分野

1. 一般 2. 土地質 3. 現地調査 4. 土の性質：室内試験と現地試験 5. 土の工学的問題の解析 6. 岩の性質：室内試験と現地試験 7. 岩の工学的問題と解析 8. 構造物の設計，施工および挙動 9. 施工法および施工機械 10. 雪氷の力学および工学

この設問は、今後小特集としての企画を希望するテーマの分野を問うもので、国際土質工学分類に基づく10の分野から選択することとした。回答の結果を表-2に示す。◎と回答した最も多い分野は、「土の工学的問題の解析」と「構造物の設計，施工および挙動」で両方をあわせると全体の60%近くに達しており、両分野に対する関心の高さが伺える。○と回答した分野も、順位が入れかわるがやはり両分野が全体の約40%を占め、他の分野を引き離している結果となっている。

図-2 テーマの取扱い方

表-3 テーマの取扱い方

テーマの取扱い方	記入した記号	◎	○	△
a. 基本的テーマ		47	29	18
b. 個別的テーマ		40	34	22
c. 関連分野のテーマ		7	24	30
d. 今日のテーマ		23	39	32
小 計		117	126	102

表-4 シリーズ企画

シリーズ企画	◎	○	△
ア. 海外シリーズ	17	33	49
イ. できるまで	22	47	35
ウ. 理論と実際	71	39	10
小 計	110	119	94

- a. 基本的テーマ 土質工学上の基本的な事柄について、その分野全体を扱うもの。「斜面安定」、「締固め」、「土の動的性質」など
- b. 個別的テーマ 基本的テーマを細分化、組合せあるいは応用的に扱うもの。「岩塊を用いた盛土」、「特殊土層におけるサウンディング」、「大口径杭の支持力」など
- c. 関連分野のテーマ 土質工学に関連のある分野を扱うもの。「土質と植生」、「都市公害」、「土質工学の周辺領域」など
- d. 今日のテーマ 近年話題となっている事柄を扱うもの。「土質技術におけるロボット化」、「廃棄物の処理と利用」、「ジオテキスタイルを用いた工法」など

この設問は、具体的なテーマの取扱い方を問うもので、4種のテーマの順位を選ぶこととした。結果は表-3に示すとおりであるが、「a. 基本的テーマ」に◎とした回答が40%、「b. 個別的テーマ」としたそれが34%と、両者で全体の3/4に達している。次いで、「d. 今日のテーマ」が20%である。本設問の回答から伺えることは、aとbのテーマを中心に最近の新しい話題を折り込みながら、たまには周辺領域のテーマをも取り上げるよう配慮されたいということであろう。

図-3 シリーズ企画

近年、次のようなシリーズとしての企画も試みています。

- ア. 海外シリーズ 「海外における土質力学」、「世界の土質関係基準」、「海外の建設工事」など
- イ. できるまでシリーズ 「ダムのできるまで」、「道路のできるまで」、「橋のできるまで」など
- ウ. 理論と実際シリーズ 「土質工学における理論と実際」、「土圧の理論と実際」、「変形における理論と実際」など

表-4に示す結果から、今後取り上げてほしいテーマとして、会員の関心は「理論と実際シリーズ」に集中している。理論と実際とがほどよく調和した、質の高い情報が小特集に求められていると判断してよさそうである。

図-4 今後希望するテーマ

具体的に記入してください。希望されるシリーズ企画名も歓迎します。

合計235にのぼる具体的なテーマ案が示された。これらを分類・整理して言えることは、表-2の結果と同様に、

「理論と実際」、「計画・設計と実際」に関心が高く、予測手法と実際がどのようにかわりあうのかという土質工学の永遠の問いに対する質の高い情報源として「土と基礎」を利用したいといった会員の切実な希望を汲み取ることができる。

今後小特集号の企画に参考とすべき多くのテーマが寄せられているが、目新しいテーマとして、現代の社会・経済情勢を反映した、例えば、「土質データベース」、「新素材」、「補修技術」、「土木技術者のあり方」などのテーマもみられた。

㊦ 全般的なご意見

小特集のテーマ、内容あるいは編集全般について、ご意見がありましたらお書きください。

約60名の方から貴重なご意見をいただきました。それらは今後、小特集号の編集・企画に活かすべく、検討を進めていきたいと思ひます。ご意見の多くは、要約すると、実

務に役立つ「土と基礎」であってほしいとの願ひの現れであります。そのほかにも、“執筆者が偏らないように”、“向こう一年間の小特集号テーマ予定を公表し、投稿準備を促したかどうか”、“会員の少数意見にも十分な配慮がほしい”など、今後の編集・企画に取り入れられるものは積極的に検討して行きたいと考えております。

3. ま と め

アンケートの回収率を考えると、何等かの結論を導くことには若干のためらいを感じる。しかし、昭和57年のアンケート調査結果をあわせ考えると、小特集号の企画・編集はそれなりに評価されているようで、それを実務に生かし利用しようとする会員の前向きの姿勢が読み取れます。会員の「土と基礎」に寄せられた期待にさらに応えて行くために、寄せられたアンケートを一つの拠り所として、今後、議論を深めていく所存です。

<講演集・シンポジウムテキスト在庫一覧>

- | | |
|---|--|
| ○第10回土質工学研究発表会発表講演集(昭和50年度) | B 5判 1026頁 定価 ¥5,200 会員特価 ¥4,000 千 ¥450 |
| ○第11回土質工学研究発表会発表講演集(昭和51年度) | B 5判 1136頁 定価 ¥5,800 会員特価 ¥4,500 千 ¥450 |
| ○第17回土質工学研究発表会発表講演集(昭和57年度) | B 5判 2716頁(2の1+2の2) (1セット)
定価 ¥14,000 会員特価 ¥10,800 千 ¥900 |
| ○第18回土質工学研究発表会発表講演集(昭和58年度) | B 5判 1598頁(2の1+2の2) (1セット)
定価 ¥8,600 会員特価 ¥6,600 千 ¥500 |
| ○第19回土質工学研究発表会発表講演集(昭和59年度) | B 5判 1670頁(2の1+2の2) (1セット)
定価 ¥8,600 会員特価 ¥6,600 千 ¥500 |
| ○第20回土質工学研究発表会発表講演集(昭和60年度) | B 5判 1758頁(2の1+2の2) (1セット)
定価 ¥9,000 会員特価 ¥7,000 千 ¥500 |
| ○第20回土質工学研究発表会特別セッション
テーマ：長野県西部地震における斜面崩壊の実態とその教訓 | B 5判 54頁 定価 ¥ 650 会員特価 ¥ 500 千 ¥300 |
| ○第21回土質工学研究発表会発表講演集(昭和61年度) | B 5判 2008頁(2の1+2の2) (1セット)
定価 ¥9,000 会員特価 ¥7,000 千 ¥550 |
| ○第24回土質工学シンポジウム(昭和54年度)
テーマA：構造物と基礎のケース・ヒストリー(Case History)
テーマB：土質試験の新しい方法及び計測技術 | B 5判 204頁 定価 ¥3,700 会員特価 ¥3,000 千 ¥300 |
| ○第25回土質工学シンポジウム(昭和55年度)
テーマ：アースアンカー工法 | B 5判 82頁 定価 ¥1,700 会員特価 ¥1,300 千 ¥300 |
| ○第26回土質工学シンポジウム(昭和56年度)
テーマ：掘削および盛土時の地盤挙動予測と実測との対比 | B 5判 76頁 定価 ¥1,700 会員特価 ¥1,300 千 ¥300 |
| ○第27回土質工学シンポジウム(昭和57年度)
テーマ：NATM工法の設計と実際 | B 5判 68頁 定価 ¥1,600 会員特価 ¥1,200 千 ¥300 |
| ○第28回土質工学シンポジウム(昭和58年度)
テーマ：原位置試験の新しい方法、計測技術および結果の解釈 | B 5判 164頁 定価 ¥3,500 会員特価 ¥2,700 千 ¥300 |
| ○第29回土質工学シンポジウム(昭和59年度)
テーマ：シールド工事に伴う周辺地盤への影響 | B 5判 101頁 定価 ¥2,200 会員特価 ¥1,700 千 ¥300 |
| ○第30回土質工学シンポジウム(昭和60年度)
テーマ：ジオテキスタイルを用いた工法—新材料・工法に関する技術的諸問題— | B 5判 135頁 定価 ¥3,100 会員特価 ¥2,400 千 ¥300 |
| ○第31回土質工学シンポジウム(昭和61年度)
テーマ：軟弱粘性土地盤における沈下予測と対策 | B 5判 168頁 定価 ¥3,800 会員特価 ¥2,900 千 ¥300 |

問合せ・注文先：(社) 土質工学会販売係 電話 03-251-7661 FAX 03-251-6688